

2022年5月1日 午前礼拝
「絶望の中で祈りと賛美が出来る理由」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 16:25~34

- 25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。
- 26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。
- 27 目を覚ました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げたものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。
- 28 そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる」と叫んだ。
- 29 看守はあかりを取り、駆け込んで来た、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。
- 30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。
- 31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。
- 32 そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。
- 33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。
- 34 それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。

【説教要約】

(A)悪霊による迫害

使徒 16:19, 彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラスを捕え、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。

使徒 16:20, そして、ふたりを長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、

使徒 16:21, ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」

使徒 16:22, 群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、

使徒 16:23, 何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。

使徒 16:24, この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。

使徒 16:25, 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

彼女の主人たちは悪霊につかれた女奴隷が悪霊から解放されたことを喜ぶのではなく、儲ける望みがなくなったことに腹を立て、パウロとシラスを捕らえ長官たちに引き渡した。

「この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」

群衆もふたりに反対して立ったので、長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。

悪霊の方法は「同盟」か「迫害」かです。悪霊につかれた女奴隷は、最初は

使徒 16:17, 彼女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続けた。

悪霊はパウロ達に好意的に見えることをしました。しかしパウロにそれを見破られたのです。

使徒 16:18, 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。」と言った。すると即座に、霊は出て行った。

悪霊は「好意的」な方法がうまく行かなかったので、「迫害」という方法を使ってきたのです。

(B) 絶望の中で祈りと賛美が出来る理由

使徒 16:24, この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。

使徒 16:25, 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

① 私たちが試練にあった時

まず理由を考えます。人間関係であれば相手の原因にします。しかし相手の原因だと思っている以上、問題は解決しません。「過去と他人は変わらない、変わるのは自分と将来だけです。」自分を変えようとしなければ問題は解決しません。

② パウロが試練にあったとき

パウロは人間的な方法で解決しようとはしていません。

詩篇 37:5, あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

パウロは主に信頼したのです。主が成し遂げてくださるのです。パウロは奥の牢に入れられ、足に足かせをかけられているのです。人間的な方法でパウロが救われる方法があると思いますか。神様に頼る以外に方法はないのです。

神様に信頼すれば神様が何とかしてくださると信頼しているから賛美をすることが出来るのです。例えば飛行機がハイジャックにあったとしても赤ちゃんはお母さんに抱かれてやすやすと眠ることが出来るのです。

(ア)使徒 9:15, しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」

パウロは異邦人宣教のために神様が選ばれた選びの器です。この牢屋の中で殺されることはないと言った神様に信頼していたのです。

(イ)使徒 13:2, 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。

パウロが異邦人宣教をするために聖霊がパウロに任務を与えたのです。聖霊様が必ず守ってくださると信頼していたのです。

(ウ)サウロはアジアに宣教したかったが聖霊がヨーロッパに導いたのです。

使徒 16:9, ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニア人が彼の前に立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。

パウロとシラスはアジアに行こうとしたが聖霊の導きでピリピに来たので、この牢屋の中で殺されることはないと言った聖霊様に信頼していたのです。

詩篇 37:5, あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

主が必ずこの牢屋から助け出してくださると信頼していたのです、ですから賛美をすることが出来たのです。

使徒 16:25, 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。

悪霊によって殺されることはないという確信があっても、喜びがなければ、他の囚人たちが聞き入るほどの賛美はできないと思います。

エペソ 5:18, また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。

パウロとシラスは御霊に満たされていたのでしょう。

使徒 16:26, ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。

神様がパウロとシラスを助ける方法は、パウロとシラスも考えなかった方法です。大きな地震によって牢屋の扉を全部開ける、これは人間の頭で考えられる方法ではありません。神様はパウロとシラスをヨーロッパ宣教に用いたかったのです。神様が御自分の御計画を遂行されるためには、どんな奇跡でも行われます。

使徒 16:27, 目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃げってしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。

ローマの法律で看守が囚人を逃がした場合は看守が死刑にされるのです。ですから看守は死刑にされる前に自殺しようとしたのです。

使徒 16:28, そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる。」と叫んだ。

使徒 16:29, 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。

使徒 16:30, そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と言った。

ここで看守が「救われるために」と言っているのはローマの法律で看守が囚人を逃がしたとき死刑にされることからの救いか、パウロとシラスが明日死刑にされるかもわからない状況のなかで祈りと賛美をしていたのを見て、パウロのシラスを「神を信じる信仰者」と認めただのだと思います。そして一瞬のうちに自分の罪が示され、このまま死ぬと神の裁きにあることが一瞬のうちにわかったのだと思います。

ヘブル 9:27, そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

ですからパウロとシラスに、「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか。」ということが出来たのです。

使徒 16:31, ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言った。

使徒 16:32, そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。

使徒 16:33, 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。

使徒 16:34, それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。

神様の方法はパウロとシラスを牢屋から救い出すだけでなく、看守の家族も救おうとされたのです。私たちは試練に遭うとき、自分たちが救われる事だけを考えます。神様は試練を通して、看守の家族も救おうとされたのです。神様はなんと素晴らしい神様でしょう。

私が試練に会うときは、自分の配慮のなさから問題を起こります、二男の望が非行グループに入って、非行グループのリーダーが相手の非行グループのリーダーの足の「もも」をナイフで刺して警察の御厄介になったときも、役員から

I テモテ 3:5, …自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう。…

私は福島の高野道場に行って祈ってきました。家内から望は自分の「息子だから何とかしろ」と言われましたが何ともならないのです。子育ての学びにも出ました。講師の先生から

ピリピ 4:13, 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

私には自分の力で息子をなんとかできるという信仰はなかったのです、しばらくして弟子訓練の学びを通して

ローマ 8:28, 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

望は、「神様の御計画によって我が家に来たんだ」という信仰が与えられました。「神様の御計画であれば神様が何とかしてくださる」という信仰が与えられました。

そして毎日ローマ 8:28 を暗唱して祈りました。そうしているうちに望と私の関係がよくなってきたのです。

望と私の関係がよくなってくると神様が働いてくださるのです。今では望はリホームの会社の専務です、非行グループのリーダーが社長です。

今でもいろいろ試練はありますが、私は試練というより訓練と考えています。

I コリント 10:13, あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

神様が訓練してくださっているのであれば、まだ見込みがあるということです。